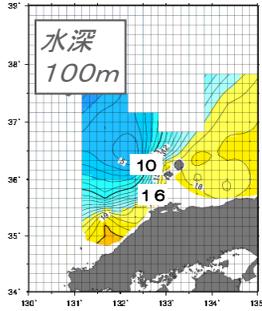
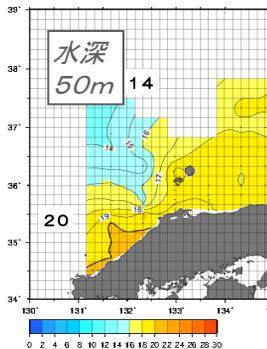


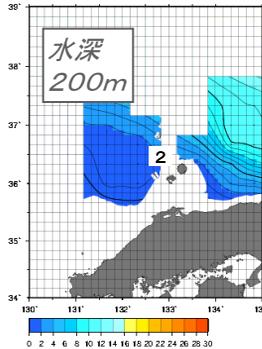
鳥取県沖と隠岐周辺海域は18°C前後で先月より1°C低下し、沿岸および隠岐北西では平年並となっています。



隠岐諸島周辺海域は16°C前後で、先月とほぼ同値でした。



鳥取県沖と隠岐周辺海域は18°C前後で先月より2°C低下し、沿岸部は平年並、隠岐東方海域では平年より1°C高、隠岐北西海域に冷水域が張り出しており平年より1°C低めとなっています。



先月と同様に、鳥取県沖から兵庫県沖合の北緯37°00'付近に暖水域があります。

水産試験場

平成26年度第一回境港地区漁海況連絡会議を開催しました。

開催日時:平成26年12月9日 13:30~15:30
開催場所:みさき会館 大会議室(境港市昭和町一番地先)
参加者:約40名



漁海況の予報



会場の様子



特別講演



講師の高橋主任研究員

発表の要旨

- 海況
12月の海水温は平年並みか若干高め。島根沖冷水の張り出しは平年並み。対馬暖流は隠岐の北側に流れている。気象庁の予報では「気温は高く、降水量は平年並みに推移」とされていることから海水温は平年並みかやや高めの予報。
- 浮魚
マアジ:前年を上回る、マサバ:平年を下回る、カタクチイワシ:平年並み、ウルメイワシ:前年・平年を下回る、マイワシ:前年・平年を下回る。
- スワイガニ
解禁直後の松葉ガニ:前年を下回り平年並み、若松葉:前年・平年を下回る、親ガニ:前年・平年を下回る。
- 特別講演
マアジ幼魚の耳石日齢解析の結果から、日本海西部海域に來遊するマアジは、九州西部海域から島根沖で産卵したものと推定される。

平成26年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

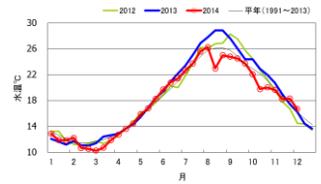
本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)

12月中旬16.7°C

平年並み



12月上旬 の水塊配置 と対馬暖流



- 島根沖冷水の沿岸への張り出し: 島根沖冷水は先月同様に隠岐北西海域で沿岸への張り出しが強い傾向にあります。
- 沖合の対馬暖流: 対馬暖流の沖合流は、島根沖冷水に沿って北上し隠岐の北方から沖合方向に流れています。

*県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています、ぜひご利用ください。

★水産課からのお知らせ★

秋田県にリベンジ! HATA-1グランプリ



11月29, 30日に東京都内で開催された「第4回秋田・鳥取うまいぞ! ハタハタフェスティバル」において、秋田県との料理対決「HATA-1(ハタワン)グランプリ」が行われました。来場者の投票によって順位が決まり、鳥取県勢が1位、3位に輝き、ベスト3を秋田県に独占された昨年のリベンジをハタしました。

- 1位【鳥取県】鳥取県産魚PR推進協議会「ハタハター夜干し焼き」
- 2位【秋田県】八峰町「しよつづの鍋」
- 3位【鳥取県】天然海水いけす 海陽亭「しろはた三種盛」

美保湾でヒトデが大量発生

美保湾では、水深の浅い海域においてヒトデが大量に発生しています。漁船が止まってしまうほどヒトデが大量に入網し操業に影響が出ているほか、ヒトデにバイの稚貝を食べ尽くされてしまうことも懸念されています。ヒトデが大量発生した原因は不明ですが、できるだけ早く漁場を回復させるため、漁業に携わる皆さんで駆除活動が行われており、境港市と県も支援しています。



■今月の漁業許可証更新情報

平成26年12月31日までに許可の更新が必要な漁業種類は以下のとおり
...すくい網(中海海域)、磯風刺網、ふくろ網(中海海域)、潜水器

■遊漁船登録業者の皆様へ

次のとおり遊漁船業者等安全講習会を開催しますのでご参加ください。(詳細は、個別に案内しています)
日時:平成27年1月23日(金)13時30分~
場所:倉吉体育文化会館 ※ 参加費無料
なお、遊漁船登録に保険期間等の変更があった時は、変更申請をお忘れなく

栽培漁業センター

御来屋、中山でクロメの藻場造成を行いました

11月21日に御来屋、22日に中山でクロメのスポアバック方式による藻場造成を漁業者のみなさんと行いました。今回の造成ではクロメの根の部分に土壌に埋め込んで、結束バンドで抜けないように加工してから増やしたい海域に投入する方法で行いました。この方法だと投入したクロメ母藻も生き残りますので、翌年も種(胞子)を出してくれることが期待されます。また、方法自体は簡単ですので、漁業者のみなさんで行える方法だと思えます。今後藻場を増やしたいと思っておられる組合、支所でも試してみられたらどうでしょう。

担当 倉長 電話0858-34-3321



クロメを土壌に埋め込んで投入します



投入されたクロメ母藻 この葉体から種(胞子)が放出されます

共和水産株式会社

取締役会長 相田 仁

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL 0859-44-7171 (代) FAX 0859-42-6530